



日高 20 建設第 57 号
平成 20 年 10 月 14 日

国土交通省道路局長 様

高知県高岡郡日高村本郷 6131
日高村長 戸 梶 眞



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

平成 20 年 9 月 19 日付国道企第 37 号「今後の道路行政についての意見・提案」
の件につきまして、別紙のとおり、回答を致します。よろしくお願い申し上げます。

道路は、豊かな住民生活や活力ある経済・社会活動を支える最も基本的な社会基盤であり、地域間の交流・連携を促進する高規格道路から住民生活に密した市町村道まで「真に必要な道路」の体系的な整備が必要不可欠である。当日高村は、隣接するいの町まで、高知自動車道が整備されているが、それに至る幹線道路となる高知西バイパス整備が遅れ気味で、全線開通のめども立っていない。

そのような状況の中、国道33号も交通量が大幅に増え、村中心部の日下橋付近の市街地では、朝夕の慢性的な交通混雑が発生している。この区間には歩道未整備区間があり、現在危険と隣り合わせの中で、通行を余儀なくされており、死亡事故も発生するなど、深刻な状況となっている。高知西バイパスの早期完成及び延伸とともに、一日も早い国道33号村中心部の歩道整備が喫緊の課題である。

毎年、道路特定財源を上廻る多大な一般財源を投入している地方にとって、道路特定財源諸税の暫定税率の廃止など現行の税体系が大幅に変更されることになれば、立ち遅れている地方の道路整備は多大な影響を受けることとなる。

については、地方の均衡ある発展と地域間格差の是正のための「真に必要な道路整備」がこれ以上後退することがないように、次の事項を強く要望する。

1. 地方が真に必要な道路整備が滞ることなく着実に進むよう、貴重な財源である地方の道路財源を維持するとともに、地域の生活に密着した道路整備に実施されるよう平成21年度以降も地方道路整備臨時交付金を継続すること。

1. 地域間格差の是正のためには、道路の整備は必要不可欠であり、道路関係費に対するマイナスシーリングを見直し、道路整備予算の十分な確保に取り組むとともに、遅れている地方への重点配分を行うこと。

1. 真に必要な道路整備の計画的な進捗を図るために、財政力の弱い自治体への国庫補助事業の補助率の引き上げなど、必要な財政措置を講じること。

1. 道路整備計画にあたっては、従来の通行量や利用率を重視した費用対効果の算定基準を見直して、新たな便益算定項目として「通行規制解消便益」や「救急救命上昇便益」を算定基準に取り入れ、地域生活の安全安心確保に直結する道路整備を図ること。

②－1地域の現状と抱える課題

高知県高岡郡日高村

○現状

[基本方針]

本村の交通は公共交通が少なく、自家用車による自動車交通が中心になっているため、幹線道路構想に基づいて、村内の幹線道路の体系的整備を積極的に進める。

[施策の体系]

道路・交通

幹線道路の体系的整備
生活道路の整備
駐車場の整備
公的交通手段の充実

○課題

生活道路の整備

生活道路として主に利用されているのは村道であるが、村道のほとんどの路線は幅員4m以下である。

多くの生活道路のうち、集落の日常生活上困難をきたしている道路を最優先にし、また、道路の利用度・必要性を検討して、幅員、法線の改善や舗装化を計画的かつ積極的に進めることが課題である。

②－2地域の目指すべき将来像

本村の市街地といえる地区は、国道33号沿線の沿道集落や山麓部の集落がかなりの距離にわたって連担している一帯の地区を指し、また、中心地区は、JR日下駅付近から役場等公的施設が集積している地区を指す。

しかし、これらの地区は、住宅や施設の集積度からみれば、正確には市街地・中心地区を形成しつつある地区であるといえる。

市街地を形成しつつある地区の地形・土地利用及び鉄道・国道33号の位置などから、この地区において大規模な市街地が形成されることは今後とも考えにくいものの、一定の市街地の形成が今以上に進むと考えられる地区である。また、中心地区についていえば、徐々に形成されつつある公的施設集積の状況や新しい村づくりの目標にてらして、この地区の中心地区としての計画的整備、高度利用は必要となってきた。

そこで、商業・サービス業の振興の観点も含めて、国道33号整備促進日高村協議会や商工会を中心に中心市街地のあり方を協議するとともに、必要性に応じて、交差点改良や歩道など計画的に市街地・中心地区の整備を促進する。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ④

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

高知県高岡郡日高村

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
地域活力の向上	平成11年に、寒風山トンネルが開通し、高知県中央部と瀬戸内海を結ぶ最短ルートとなったことから交通量が増加している。そのため、国道194号と国道33号及び国道56号の連絡道として、国道194号より日高村能津地区を経てトンネルで貫通して国道33号に連絡し、さらに沖名地区をトンネルで貫通し土佐市で高知自動車道及び国道56号と連絡する日高村縦貫南北道路について提案する。	日高村縦貫南北道が開通することによって、隣接市町村との市町村合併問題の条件整備が整うとともに、お互いの市町村の特色を生かし、産業や観光面での交流人口の増大が期待され、地域経済の活性化等が見込まれる。	